

令和 6 年 5 月 11 日現在

機関番号：12606

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00168

研究課題名（和文）日本近代における洋風額縁の研究 長尾建吉の東京美術学校納入作品を中心に

研究課題名（英文）Research on Japanese western-style picture frame in modern Japan: Focusing on artworks delivered to Tokyo Fine Arts School by Kenkichi Nagao

研究代表者

中江 花菜（Nakae, Kana）

東京藝術大学・学内共同利用施設等・特任助教

研究者番号：90899303

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、近代日本における洋風額縁製造の第一人者である長尾建吉が製作した洋風額縁の着想源・製造法およびその意匠の全容解明に取り組むものである。東京藝術大学に残る長尾が納入した額縁の調査と海外での額縁の調査を通じて、洋画の黎明期を下支えした額縁や額縁商の諸相を明らかにした。研究成果は、同大学大学美術館年報で発表した論考や大学博物館等協議会・博物科学会での口頭発表にて報告した。また、調査過程で撮影した国内外の額縁の画像データや雑誌記事をリスト化することにより、さらなる研究に展開する基盤を整えた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は日本近代洋画の研究史において看過され、作品画像から常にトリミングされてきた「額縁」の存在に光を当て、洋画の黎明期を支えた洋風額縁を専門的に研究した点に学術的な独自性がある。本研究で行った額縁の調査は、日本における額縁研究に新知見と新資料をもたらし、国際的な潮流から遅れを取る日本の当該分野の研究に先鞭をつけた。さらに、調査過程で協力を仰いだ全国の美術館および海外研究者と額縁に関する情報を交換できるネットワークを構築できたことも、当該分野研究の発展に資する本研究の意義であると言える。

研究成果の概要（英文）：Kenkichi Nagao (1860-1938) was the first picture frame maker who made Japanese western-style picture frames. Through several research on his picture frames, I uncovered his inspiration source, his production method, and his decoration design for western-style picture frames. This research clarified 2 main points of Nagao's picture frame. First, the influence from picture frames made in Western countries, especially France and the UK, and second, unique style in Japan. My results were presented in 3 articles on Annual Report of The University Art Museum and in 2 presentations on the Council of University Museums in Japan. I made a list for the image archives of picture frames and magazine articles in modern Japan as a basis for the further research on this subject.

研究分野：日本近代美術史

キーワード：洋風額縁 額縁 磯谷商店 長尾建吉 東京美術学校 洋画 明治美術

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

明治期以降、国内では洋画団体の活動が活発化するにつれて絵画作品が頻繁に展示されるようになり、作品を壁面に固定する枠組みである「額縁」が必要となった。長尾建吉(1860 - 1938)は、1881年以降、画家・山本芳翠がフランスから持ち帰った額縁製造書をもとに額縁製造を開始する。彼は西洋の意匠や製造技法を取り入れながら、各々の絵画作品や日本の展示空間に見合う額縁を製造し、洋画の発展を陰ながら支えてきた。だがその功績にもかかわらず、長尾や彼の製造した額縁の存在は日本近代洋画の研究史では見過ごされてきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、長尾建吉が製作した洋風額縁の着想源・製造法およびその意匠の全容について実践的に検証することにある。一般的に作品画像からトリミングされることが多い額縁であるが、本研究では一点ずつ実見して、意匠や構造についての特徴を挙げ整理することによってすべての研究の基礎情報として活用することに取り組んだ。額縁の研究は近年国際的に高まりを見せるが、国内においてはほとんど手つかずの状態であったため、本研究が当該分野の発展に貢献していくことも視野に入れた。

### 3. 研究の方法

東京藝術大学には、前身である東京美術学校に長尾が納入した来歴を持つ作品が150点超現存し、その多くには長尾が製作した額縁が現在も囲んでいる。本研究では、研究対象を上述の153点に設定し、主に以下の研究を行った。

(1) 研究対象とする額縁の悉皆調査：研究対象作品について、現状どのような額縁が取り付けられるか確認した。装飾ごとに分類を行い、本研究の要のデータとしてリスト化を行った。さらに、長尾が1905年に興した額縁店「磯谷商店」のラベルが付く額縁を国内美術館にて調査し、その額縁の意匠や構造を確認した(調査先：黒田記念館、東京都現代美術館)。国内に所蔵される額縁は膨大な量に上るため、本研究では調査・閲覧先をかなり限定したことを付記する。

(2) 資料調査：学内に残された東京美術学校時代の物品台帳・作品写真、画家の日記、当時の美術雑誌にて額縁について触れた記事などを網羅的に収集した。

(3) 長尾建吉以前の時代の額縁の調査：長尾が洋風額縁を製造する以前に製作された額縁について、国内博物館にて調査を行い、その額縁の意匠や構造を確認した(調査先：松戸市戸定歴史館、東京国立博物館、泉屋博古館、金刀比羅宮高橋由一館)。

(4) 国外調査：項目1で行った調査結果を踏まえ、額縁研究が進むロンドンにおいて4機関6名の研究者と日本近代の額縁について意見交換を行った。さらに、19世紀末にヨーロッパで製造された額縁について、現地の額縁店および美術館において調査を行い、長尾の洋風額縁における西洋由来の要素と、長尾の額縁にみる「日本性」を検討した。

### 4. 研究成果

(1) 本研究の研究成果は、東京芸術大学大学美術館年報に投稿した3本の論考(「日本近代の洋風額縁：長尾建吉製作の白い額縁をめぐる試論」「収蔵品紹介：山本芳翠《猛虎一声》」「当館所蔵の油彩画における「旧額」の資料的価値」と、日本博物科学会全国大会における2本の学会発表(「日本近代洋画の額縁 長尾建吉による東京美術学校納入作品」「展示什器としての額縁 旧額の調査研究を通じて」)において発表した。

(2) 本研究では、東京藝術大学が所蔵する長尾建吉が納入した来歴を持つ作品153点の額縁の実見・簡易撮影を行い、現状どのような額縁が取り付けられるか確認した。装飾ごとに分類を行い、本研究の核となるデータとしてリスト化を行った。本データは、今後の研究のさらなる発展に資するデータである。

(3) 本研究の一環として、大学美術館に取り置かれた「かつて作品が収まっていた空の額縁(旧

額)」を調査した。旧額に元々収まっていた作品の同定など、額縁研究の新しいアプローチに挑戦した。本研究の成果は、日本博物科学会全国大会の口頭発表「展示什器としての額縁 旧額の調査研究を通じて」と、拙稿「当館所蔵の油彩画における「旧額」の資料的価値」『東京藝術大学大学美術館 年報』東京藝術大学、2024年3月に反映している。

(4) 本研究を通じて、額縁を研究する意義について国内外の美術館・関連機関にご理解をいただき、今後も額縁に関する情報交換を行う関係性を構築することができた。美術史における額縁の重要性を共通認識とできるように働きかけることができたことは、諸外国に遅れをとる日本における当該分野の研究促進への一助となる成果といえよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 中江花菜	4. 巻 令和3年度号
2. 論文標題 収蔵品紹介 山本芳翠《猛虎一声》	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京藝術大学大学美術館 年報（令和3年度）	6. 最初と最後の頁 pp. 37-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中江花菜	4. 巻 令和2年度号
2. 論文標題 日本近代の洋風額縁：長尾建吉製作の白い額縁をめぐる試論	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京藝術大学大学美術館 年報・紀要（令和2年度）	6. 最初と最後の頁 pp. 37-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中江花菜	4. 巻 令和4年度号
2. 論文標題 当館所蔵の油彩画における「旧額」の資料的価値	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 東京藝術大学大学美術館 年報・紀要（令和4年度）	6. 最初と最後の頁 pp. 35-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 中江花菜
2. 発表標題 日本近代洋画の額縁 長尾建吉による東京美術学校納入作品
3. 学会等名 第16回大学博物館等協議会・日本博物科学会 全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中江花菜
2. 発表標題 展示什器としての額縁－旧額の調査研究を通じて
3. 学会等名 第18回大学博物館等協議会・日本博物科学会 全国大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関